伯剌西爾時報

發行所 伯剌西爾時報社
電話 七・四六七〇
社長 黒石清作 M. Sameshima
購讀料 一ケ年 六十圓 半ケ年 三十圓
廣告は御照會次第御返信

珈琲 サントス四級 十キロ 一ヶ月七圓 休日
爲替 對日 郵便送金 對米 電信送金 對英 休日

# 帝國海軍が商船を保護

## 海軍省から今議會提出

### 保護船法案

〔東京廿五日同盟〕海軍省は來る廿七日の閣議の承認を經て、今議會に船舶保護法案を上提する事となつたが、國家總力戰の形態をとつて來た近代戰に於ける海外通商、交通の保護、敵國の通商破壞脅威に對し、兵力を以て船舶を保護するに必要な命令を海軍官憲が爲す事を得る目的とし、海賊般の淺間丸事件の如き不祥事や、目下歐洲に行はれてゐる殲滅戰爭捕獲のやうな危險を未然に防止せんとするもので、今日歐洲で行はれてゐるやうな船舶の編隊航行及び之に要する船舶の設備、乘員の訓練等海軍として保護し易いやうに平素から自衛上必要なる準備を爲すべき事項に就き、海軍大臣の命令權を定めるものである、商船用の時期は、戰時、事變及び第三國間の交戰で船舶保護の必要なる時となつてゐる

## 川崎氏の質疑

〔東京二十五日同盟〕政府は二十五日衆議院豫算總會に於ける川崎克氏の大政翼賛運動の本質に關する質問は、單なる形式法理論に過ぎぬ、且つ期する論議は漸く實踐期に入つた大政翼賛運動に悪影響を及ぼすものとして、同日正午伊藤情報局總裁より押公式に政府の意見を左の如く表明した

川崎氏に對する政府側の見解は、平沼内相の答辯中の最後の部分で盡きると思ふ即ち大政翼賛運動は官民が各々其の職域に於て御奉公申上ることを意味し、憲法上の統治權とか、國務大臣の輔弼、兩院議員の協賛權とかを否認するものでない從つて憲法の精神に反する事は全然ないと確信する、伊藤氏は鳥民翼賛なら差支へないが、大政翼賛と云ふのはいけないと云つてゐる、この憲法の條章を無視しては責任の紛糾は免れぬ、議會と政府一體となつて政治を行へば、充分國民翼賛の實を擧げ得る

# 字句の論議に拘泥

## 憲法の本質辨へぬ質問

### 伊藤總裁 政府の意見表明

るが、翼賛運動の規約を見ても判るやうに、運動の目的として鳥民翼賛と云ふ言葉を使ひ、大政翼賛と云ふ言葉は使つてゐない、又衆議院議員と云ふ言葉はドイツ流の憲法にあるのでいけないと云ふが、練裁と云ふ事は議長に一任と云ふ事である、翼賛會が憲法違反とすれば大多數の議員は翼賛會に入つてゐり、此等の議員も憲法違反の疑を探つてゐる事となるではないか、要するに川崎氏の質問は字句の論議に終始し、本質を辨へざるものである

### 外務辭令

〔東京二十五日同盟〕外務辭令（二十五日）大使館書記官（中華民國）兼總領事（北京）土田豐

免兼官（興亞院書記官兼總領事）兼大使館一等書記官（兼總領事）中華民國在勤を命ず

一等書記官として北京在勤を命ず（總領事）

### 上海爲替

〔上海二十五日同盟〕爲替昔對英三片六十の二十七、對米五弗十六の七、電紙五十八円八の七、五十円八の一買ひ

### 棉布市場

〔東京二十五日同盟〕綿布前寄り三四四五、三五三、三五五、三五四五、三七一五、三七七、三七九五

# 翼賛運動は憲法違反

## 川崎克氏 執拗に政府へ喰下る

天皇が國家國民を統御遊ばされるのを翼賛し奉るものは國務大臣と帝國議會の外にないと思ふ

村瀬法制局長官

憲法上大政が國務大臣の輔弼によつて行はれることは疑ひない、大政翼賛運動は大政の意義を廣義に解し洽く等にも明記してある憲法上大政を翼賛し奉るものは國務大臣と帝國議會の外にないと思ふ

村瀬法制局長官

憲法上大政が國務大臣の輔弼によつて行はれることは疑ひない、大政翼賛運動は大政の意義を廣義に解し洽く

天皇が國家國民を統御遊ばされるのを翼賛し奉ることで翼賛運動は議會の權限を犯すものではない、寧ろ議會の自用を

近衛首相 大政翼賛運動は議會の權限を犯すものではない、寧ろ議會の自用を

川崎 憲法の條文も、明治二十九年の御詔書にも、國民翼賛の機關は議會に限る事を明瞭に明せ出されてゐる、この憲法の條章を無視しては責任の紛糾は免れぬ、議會と政府一體となつて政治を行へば、充分國民翼賛の實を擧げ得る

### 議會豫算總會

〔東京二十五日同盟〕衆議院豫算總會、三、川崎 伊藤公の憲法義解には天皇輔弼の責は國務大臣に限られてゐる、これは單に憲法義解のみでなく其の他の御詔書

# 米の國際發行限度

## 六百五十億弗に引上げ

〔華府廿五日同盟〕米政府は國債發行限度の擴張を提議したが廿四日、下院歳入委員長リチャード・ダウトンは國債發行限度を現行の四百九十億より六百五十億弗に引上げんとする國債發行限度擴張案を下院に提出した、御往現在の米國債發行高は四百五十一億六千三百万弗に達してゐる

# 新駐米英大使

## ハリファックス氏米へ到着

〔倫敦二十四日發〕UP電によれば、新駐米英國大使に任命されたハリファックス前英外相は二十四日、英大西洋艦隊所屬驅逐艦キングチョージ號にて無事米國へ到着した

### 補充するものである

川崎 憲法の條文も、明治二十九年の御詔書にも、國民翼賛の機關は議會に限る事を明瞭に明せ出されてゐる

### 近衛首相

答辯せず

川崎 議會が無能ならば解散すればよい、補助機關として翼賛會を設ける必要はない

### 近衛自相

憲法義解と

### 村瀬法制局長官

憲法の條章は訂正すべきものでなく、また擴充すべきものでもない、大政翼賛會は戰時諸政策遂行に當り、國家總力を發揮するための機關である

川崎氏 自說を枉げずに憲法論を續けて意々大政翼賛會に對する國庫補助豫算に言及する

〔東京二十五日同盟〕衆議院豫算總會四、川崎氏は翼賛會の當り乍ら翼賛會費用の豫備金支出を論難、河田蔵相と押問答を行ひ、更に憲法論に戻つて

川崎 萬機公論に決せよとの五ケ條の御誓文に基き設置された帝國議會の議事運用には、多數決の上、陛下の御裁を仰ぐ事となつてゐる我國に於ては、多數少數の上には天皇陛下のみがあらせられる、政府は統裁に就いては公論に聽き正論を探ると云ふが、斯る政治は憲法政治の方式をあやまる、政府は眞に憲法政治を樹て直してほしい

### 平沼内相

大政翼賛會は現内閣が是認するものである、憲法違反論に對しては明白に鮮明しておかねばならぬ、万民が天皇を翼賛し奉る事は斷じて國民を擁護する處ではない万民をして翼賛の實を擧げしむる事は總ての人が各々その職分に應じて輔翼の責を盡すにある、この趣旨により翼賛會が出來、政府は之を是認してゐる政府の政策が翼賛會に依つて國民に周知せしめられこれに應じて國民が職分に

### 川崎

萬機公論に決せよとの五ケ條の御誓文に基き設置された帝國議會の議事運用には、多數決の上、陛下の御裁を仰ぐ事となつてゐる我國に於ては、多數少數の上には天皇陛下のみがあらせられる、政府は統裁に就いては公論に聽き正論を探ると云ふが、斯る政治は憲法政治の方式をあやまる、政府は眞に憲法政治を樹て直してほしい

### 平沼内相

大政翼賛會は現内閣が是認するものである、憲法違反論に對しては明白に鮮明しておかねばならぬ、万民が天皇を翼賛し奉る事は斷じて國民を擁護する處ではない

# 罰金最高一萬圓が三萬圓に增額される

一、統制組合の規定を統制團體の規定に改正、以て不提出となつた產業團體法の機構を果し得る事とした
一、會社の合併、解散等を命令し得る事とした
一、勞務者の移動防止等勞務統制を强化した
一、物資總動員、業務の「總動員」を削除し、適用範圍を擴大した等であり、新修項としては
一、債務の支拂條件に就て必要な命令をなし得る事
一、事業の竝許制を實施し得る事
一、消費統制稅の納付期限統制實施上必要な調査をなし得る事等が追記される標準、又罰則規定の强化は、罰金刑の現行最高一萬円を一萬円に三萬円に增額する方針である

四、罰則の强化等にあり、實體既成の部分のみでも十數ケ條に亘る大改正であるが改正の主要論は、

改正案成る

〔東京二十五日同盟〕政府提出議案大整理の結果、今議會の重要法案となつた國家總動員法中改正法律案は、企劃院及び法制局を中心に案文を調製中であつたが、漸く成案を終るに至り、二十五日臨時閣議に於て開き最後的調製を行ひ、大體二十七日の閣議に附議、正式決定直ちに衆議院に提出する事となつた

今回改正の基本方針は

一、各條項に亘る不備缺陷の補正
二、戰時の急に應ずる臨時立法範圍の擴大
三、積極的國民的生活の共與

### 總動員法改正案成る

〔東京二十五日同盟〕二十五日の議會は貴族院は本會議、委員會共に無く、衆議院も本會議無く、委員會も赤字公債委員會が開かれたのみで明日に引續き專ら豫算總會に主力を集中、此日は明治臨時軍事費追加案の提出あり、次で川崎克、森田福市、中島彌團次の議氏より夫々質疑を傾けたが、川崎氏先づ大政翼賛會の政治性に亦き精巧な憲法論を代表した形で執拗に政府の所信を糺せば、首相、内相等より異同より憲法違反論駁聲を爲し、翼賛會に關する論議が愈々佳境に入つた

### 二十五日の衆議院

## 豫算總會に主力集中

# 川崎氏なほも

## 軍部大臣に詰め寄る

〔東京二十五日同盟〕衆議院豫算總會二、川崎 軍部大臣の所見如何

東條陸相 國務大臣としてその權限内の事に就ては充分責任を盡してゐるから御安心願ひたい、

但し陸軍に於ては統帥大權の範圍に屬する事があり、これは國務の範圍外である

及び海相 海軍としても紀

# 軍事費吏に十億圓追加

## 河田藏相 豫算總會で說明

〔東京廿五日同盟〕衆議院豫算總會、廿五日の衆議院豫算總會は午前十時十二分開會、政府提出一、臨時軍事費豫算追加案について河田藏相より臨時軍事費豫算追加として計上する所の金額は、歳入、歳出各十億円、時局に關する軍費支拂の爲め要するもので公債及び繰替へ借入金九億九千七百八十六万円、北支事件特別稅二百三十二万円その他が財源となつて計上する所の金額は、歳入、歳出各十億円、時局に關する軍費支拂の爲め要するもので公債及び繰替へ借入金九億九千七百八十六万円、北支事件特別稅二百三十二万円その他が財源となる

川崎 憲法上、大政翼賛は如何なる意味をもつか

相 大政とは天皇の國家統治の御皇道、即ち翼賛の御政治でなく飽く天皇の大御業を指すのである、大政翼賛とは、この天皇の大御業を翼賛し奉る事である

# 二人草三郎

## 輸廻の雨（十九）

（禁無斷 轉載上映）

小堀 雄 小川倩馥

光葉の聲が御機嫌で、「それに、一日も早く、貴方の御病氣の快くなるやうにと觀音樣へ願掛けをして、明日は姿の命に代へてもと願ひ申してをりますから、どうぞこの上ともに、お身體を大事になさつて下さんせ」

「まア、お聞きの通りですよ貴方」

と、梅ケ枝の聲が引取つて、「それにまだ、華魁もお年は若し、よいお客もありませんので、思ふ樣にお小遣ひも差上げられませんが、その内によい旦那でもかゝつたら——貴方さまにも、もつと十分に華魁が——」「ほんに姿はそればつかりを……」と光葉の聲が打ち濕つた。

（えゝッ！）

と立聞く松太郎が沸き返る胸の中で——（何と言ふ忌まゝ〳〵しい、この自分と、あれ

「どうぞ、お引止めして下さんせ。後でいろ〳〵稼もる話もありますゆゑ——」

「華魁もあんなに仰有る——」

「松さま！ まア待つて、話は後で華魁から、さうすれば分ることですから。機嫌を直して、ねえ、松さま！」

「よろしッ」と松太郎、見えぬ相手を睨み附えて、

「それ程ふなら、どうせお朋達の對は嫌なことではあるまいが、おうさうだ、折角だ、華魁が命まで打ち込むと云つて行かう。光葉が、觀音は元はといへばその方から出樣へ命まで縮めて、願掛けしたお金ほどの些少ではござんすが、華魁のお志、どうぞ御遠慮なくお納めなすつて置いて下さんせ」聞くや、かつと激昂した松太郎、疾風を蹴倒したい程の衝動は、やつと抑へたが、干つくやうな喉嚨を鳴つて、「あッ——」と、眼を瞪つて立ち竦んでしまつた。

「あれッ」「松樣！」

左右から取り縋る梅ケ枝の聲外！ そこには五十路餘りと見ゆるうらぶれた老武士が、兩眼を瞠いてゐるらしい顏を此方に向けて、情然と坐つて出た。「まア、何をしに貴方はこんなところへ——それに眞青になつて、そんなにボン〳〵と……もう暫くですよ、直に華魁の御用は濟みますから——」「馬鹿にするなッ、俺は歸る！」「まア——松さま！」

「いゝや、俺は歸る」「梅ケ枝さん、お願ひ！」と、疾風の中から光葉の聲が——。

「松さまを離してはいけませんよ。何卒御止めて置いて下さい。絲や絲、これ、お前も早く松さまをお止めしておく」

「なにッ？ 俺を歸さない？ どうせ俺はお人好し。貴方さまにも、もつと十分に働めとはいひながら、人を騙して金を取つて、間夫に入れ上げる。それ程ひどい女とは知らなかつた……誠が一刻だつてこんな所にゐるもの——」

「でも——、華魁が——」

# 獨逸に石油

## ガソリン極めて豐富

### 紐育石油業者の觀測

〔紐育廿五日同盟〕當地石油業者の言明に依ると、戰爭勃發から十六ケ月を經過した現在でも、獨逸は石油、ガソリンには不自由なく、現在の發動機用油貯藏量は大戰當時より九百万バレルが增加してゐる、即ちこれに依れば開戰當時には四千万バレルの發動機用油が、今では四千九百万バレルの貯藏で、これを以つてすると開白初期搭のやうな電擊作戰を今後六ケ月間續けても大丈夫だ、一部では獨逸は今日最こそ少いが潤滑油の輸出をさへ行つてゐるが、これは獨逸が缺乏を感じてゐない證據であると

# 軍事費吏に十億圓追加

## 河田藏相 豫算總會で說明

### 有題無題

◆米の叫び 今はソ聯の一擊一笑にまで神經を使ふやうになつてゐるが、モスクワ駐在米英兩大使は二十四日モロトフ外相と三時間の會談を行つたことを取り上げ、これはソ聯との親善の表れだと國喜の涙を流してゐるそうだ

◆アントネスコ・ルーマニヤ首相は今度獨伊軍に見オリアシマを逮捕監禁し自ら總統に就任

◆英軍とエチオピア軍が共同して首都アヂスアベバ攻擊を開始したと

◆獨の大軍が北部アフリカのチュニスへ上陸準備中であるが、ヴイシー政府に反對してゐる佛領民地軍は獨軍に抗戰を開始するらしい

◆英米の一擊一笑にまで神經を使ふやうになつてゐるが、モスクワ駐在米英兩大使は二十四日モロトフ外相と三時間の會談を行つたことを取り上げ、これはソ聯との親善の表れだと國喜の涙を流してゐるそうだ

◆アントネスコ・ルーマニヤ首相は今度獨伊軍に見オリアシマを逮捕監禁し自ら總統に就任

◆獨逸と軍事協定を行ふこと

◆ハンガリー陸相は近々伯林訪問獨逸と軍事協定を行ふこと

◆獨逸に石油ガソリン極めて豐富

◆二十五日の衆議院豫算總會に主力集中

◆二人草三郎

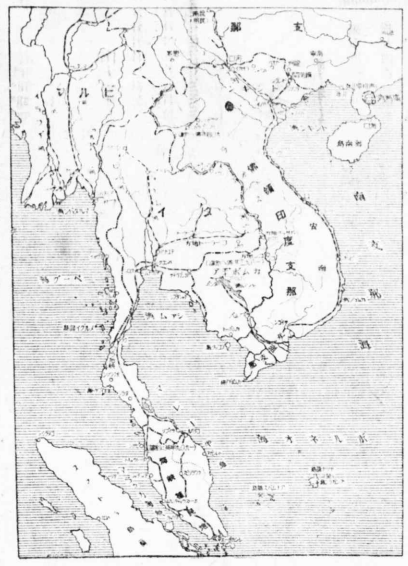
# 泰、佛印兩國間の紛爭
# 日本側の調停成功
## 兩國即時戰鬪中止を受諾

（東京廿五日同盟）泰國の失地回復紛糾を續り泰、佛印紛爭は遂に武力衝突を見、兩國の戰鬪は最近益々擴大せられるに至つたので、東亞の安定をその使命とする帝國政府は事態の圓滿解決の爲め舊臘來、居中調停ヶ爲すべく努力し來つた所、今回兩國政府より戰鬪行爲の即時停止及び紛爭調停に關する我方の提議を正式受諾する旨 回答し來り、廿四日夜、その旨情報局より發表された

### 情報局發表要旨

東京二十五日同盟）泰、佛印國境紛爭に對する帝國政府の調停申入れに關する情報局發表（二十四日）

泰國及び佛國政府は、今般泰、佛印國境紛爭に關する帝國政府の停戰及び紛爭調停申入れを受諾せる泰國に於る失地回復運動の氣運發生以來泰、佛印間の關係緊張の一途を辿りたるに就き帝國政府は大東亞の安定勢力と東亞民族の共存共榮を顧慮し、斯る問題は干戈に訴ふる事無く、平和裡に解決せられん事を欲し、必要なる措置を施し來れるも、不幸にして其後遂に泰、佛印間に武力衝突を見るに至れり、然して佛國側に對しては十二日初旬在京アンリー大使を通じ非公式に紛爭解決に關し、調停の用意ある旨申入れ置きたり。然るに其後事態は益々解決の方向に進まざるのみならず、最近に於ては兩國の戰鬪益々擴大せられ、剛途風雲愈愈緊迫すべきものありと認められるに至りしを以て、一月二十日、松岡外務大臣より



（カッコは泰、佛印附近略圖）

## 嚴たる我が指導力
## 調停成功の意義重大

（東京廿五日同盟）泰、佛印間國境紛爭事件は昨年十月末勃發以來本年に入つてから益々激烈となり、東亞の安定上面白からざる事件として其成行きは東亞新秩序建設に逆進する帝國政府の憂慮してた處であつたが、此の間東亞に日本勢力が浸透する事を嫉ばず、我勢力の驅逐に大意となつてた英米は此が調停に乘り出さんとして、泰國政府及び佛印南部にその勢力を有つ佛印、泰兩國紛爭に就き調停を申入れ來つたので、政府はアンリー大使に對し、日本政府と調停手續きに就き一切一任した旨あり、東亞安定勢力に指導的地位を占める帝國政府はこれを默視出來ず、翌朝來松岡外相はアンリ在京佛大使及びシーセナ在京泰公使に對し、居中調停に立ち、紛爭解決を斡旋せん事を申入れた、右に對し佛、泰兩國政府部内にも種々の意見も出たが、廿四日に至り、兩國政府は帝國の調停を受諾する旨の回答を寄し來つた

## 佛國政府の發表

（ヴィシー二十四日同盟）佛政府は佛印、泰國の國境紛爭に關し、日本政府の調停申入れを受諾した旨、二十三日次の如く發表した

日本政府は去る二十一日、佛印、泰兩國紛爭に就き調停を申入れ來つたので、政府はアンリー大使に對し、日本政府と調停手續きに就き一切一任したる旨あり、在京佛大使及び在京泰公使に對し、兩國政府に對し、戰鬪行爲の即時停止及び紛爭調停に關する帝國政府の提議を正式に申入れたる處、今般、右申入れに對し佛、泰兩國政府は夫々受諾の旨を回答し來れり

## 兩國の軍事行動
## 完全に休止さる

（ハノイ二十五日同盟）泰、佛紛爭に關する帝國の居中調停申入れ受諾に依つて緊張の軍事行動は二十四日樂軍實上休止の狀態に入つた、佛印側は遽かに泰國との間に停戰取極めを希望し、東京に於る調停會議に參加すべく發動を勧めてる旨通ずべく發動を勧めて

## 土佐沖の海底から
## 小判がザク〳〵出る
### 軍船沈沒の傳說がホントー

（高知發）海底から魚ならぬ山吹色の黃金がザクザク——ところは德島縣の東南端那賀郡椿村出生田岬の東方沖合四哩の海底、附近海底で三百六十余年の昔土佐の長曾我部元親が四國征服の夢、莫大な軍用金を滿載し航行の途中暗礁に乗上げたと傳說に着眼した同村椿泊漁業組合員梶田基雄氏は同郡椿村から潜水夫を雇ひ入れ引揚げに着手した結果、鷹長小判七枚、小粒四十余枚、金の延棒二寸巾さ三寸厚さ二分～七本を引揚げたので、さらに同組合の鷹飯で漁夫數名を動員し、引揚げにつとめてゐる、同岬附近海岸では二、三年前にも小粒數枚が引揚げられ、漁師が拾つたことがあり、調査が進むにつれ千兩箱も現れるのではないかと附近漁民の話題を賑はしてゐるが、同漁業組合の淵上大事明さんは語る

昔から、出生田岬沖合には長曾我部の軍船が多額の軍資金を積込んで大阪へ向ふ途中難破したと聞いてゐたし、鷹飯といふ名もかうした傳說から生れたわけですが、傳說が事實となつたわけです、引揚げ個所は水深四五尋で作業が非常に容易です

## 武勳赫々たる
## 功果橋爆擊部隊
### 東京より祝電發せらる

（東京二十五日同盟）昨年末ビルマルートの功果新橋の爆破以來、去る二十三日の功果衝撃爆破に至る迄、數次に亘る爆撃に依り、敵方唯一の援蒋ルートたるテン細公路を完全に遮斷した海軍航空部隊の武勳に對し、二十四日、大本營海軍部宜勝軍令部次長から左の祝電を發した

南支航空部隊が反覆攻撃に努め精神なる技倆を發揮し敵にテン細路の完全遮斷に成功せしめるを欣賞す

## 獵奇的小說の主人公
### 三浦

（三）

船の者へでは皆癈船し、無賃行乘で乘船するのであると云ふこともあつたらうが、此際合名を名乘らない方がよかろうと、不用意の間に自分の名を「郷」と稱したのは明治四十一年（一九〇九年）であつたと云ふから、三浦は一年余の間船内生活をして居る間にすつかり船員と親しくなり、日本人だからお前も柔道が出來るだらうと云はれて、氣まぐれに覺えて來たことが役立つて、リオ上陸後は陸海軍の柔道教師となつて生活の道を立てた。

### 千九

百十二年私がアマゾナス行きの途上リオに滯留中は、未だ都と呼んで居たが、翌年アマゾナスから戻つて來ると、都と云ふ者もたまには聞いたが、三浦と正眞正銘の姓を呼ぶものが多かつた。

それはどう云ふ訳か云ふと三浦の都が日本の柔道教師だと云ふことから呼ばれ、試合の申込みを受けた。ブラジルに「カポエラ」と稱する一種の體術がある。それは沖縄の空拳術とは違つて早歩に する素早い體術で、三浦に敗れを申込んだ黒奴と云ふのは即ち此カポエラ體術に長じた男であつた。三浦はあの通りの利口者であるから、自分の柔道などはいゝ位なものであることを知らない筈もないが柔道師範をして居る手前、敗技の申込みを斷るに斷はれない破目に陥り、遂に愈々日を卜して試合を決行することゝなつた。

### アベ

ニーダ・セントラール（現アベニーダ・リオブランコ）のホテルアベニーダの下方向側にあらず、道を隔てゝ（名は思ひ出せないが）シネマ館が在る處、其頃は未だ木造の粗末な假小屋に過ぎなかつたが假令は此家レビューや裸體舞などのかゝる色物踏である板小屋で試合をすることゝなつたのである。

有名な日本の柔道とブラジルの體術カポエラの試合があると云ふので大變な評判となつた。

愈々其日が來て、二人は舞台の上に立つたのを見ると、黒奴は體格も頑丈で大きいが柔道家の日本人を見ると成程日本人と云ふものは嘘の如く小人國であるとうなづける程たならば、露骨に勝つた日本人の武勇にしたをかけることゝなる訳である。日物への恨には何とかしても小男の日本人がいたゝしくしてたまらない樣な感じを與へた。

「あれではジャポンが負けだらう」

とつぶやくものがあれば

「いや人間は小さくつても柔術は世界的に名高い武術だから、カポエラなどの及ぶ所でない」

と、物識り顔に云ふものもあつた。觀衆の情は余りにも體格の肥入な黒奴よりも、寧ろ、エスキモー人の樣な三浦にあつた。

### わゝ

〳〵といふ叫びの内に試合が始まつた、三浦が黒奴の挑んで來る手を取つて拳投げを打つつた。と思つたほんの瞬間の樣な瞬間であつた。意外にも三浦はアッと叫んで反對に倒れてしまつたのである。これはカポエラの姉所で、黒奴が倒れさまに三浦の鼻をしたゝか識つて立ち上つたのであつた。

三浦は鼻血をたらしたまゝ起き上ることも出來なかつたので、餘りにもあつけない勝負に見物人は呆然としてしまつた。只これ丈ですめば三浦に取つてコミックな思出に終つたであらうが、皮肉なん世はさう簡單には行かなかつたのである。

### カポ

エラに負ける樣な柔道なら何も金を拂つて稽古して貰ふに及ばないと云ふことになり、彼が唯一の飯の種であつた陸海軍の柔道師範役を斷はられて仕舞つたのである。

### あれ

でカポエラの黒奴を倒したとし

### 綿布

（東京二十五日同盟）綿布前引け

四四、三五三、一五八九、三八三、三七〇五、三七六

### 相場

四四、三五三、一


社告

謹啓　時下愈々御隆昌之段奉賀候

陳者弊社外交員、大西武雄儀今回貴地方訪問致させ候に付ては宜敷御配慮の程御願申上候

敬具

昭和十六年一月十五日

伯剌西爾時報社

Dr. Friedrich Müller
R. Farão Itapetininga, 50, 7º
耳鼻咽喉科專門
頭痛、鼻道鑄、整形
時：三十年の經驗あり
診察平日午前二時半より六時迄、土曜は九時迄
電話四一八七四〇
平急八一二五九三

サントス・ウロキヤ線
レザストロ方面
在サントス・ウロキヤ線



Casa Allemã　恒例　夏季特別大賣出し　奉仕　Casa Allemã
驚異的新廉價
Schaedlich, Obert & Cia.　Rua Direita, 162-190



聖市　羽瀬商店　電話二—一五七五　郵函二—A
壽々木米若　文藝浪曲　妻　紐四枚　クチイテ
大浪曲　ドーコル　伝吉男の歌造　一組六枚續き　廣澤虎造
ドーコル　ナカワの女先生　優美　ミス・ワカナ　玉松一郎　二枚
クチイテ　松の石道街　日活映畫　鶴田六郎　美ち奴
セハ　子の守唄　斬り捨る　流行歌　戰の女
大評判　浪花節　人氣絶頂の乱花　咲き誇る　歌謡　流行歌　山路ふみオ　純情の花



CLINICA Dr. José Muniz de Mello
Rua Boa Vista, 116 - 3º andar - salas 301, 302, 303 - Tel. 2-5822 - S. Paulo
脱腸 — 陰嚢水腫　入院を要せず
無痛無手術局部注射に依る
根本治療 — 皮膚病・濕疹・雲脂症
丹毒・若禿　親切・丁寧・廉價
診察時間　午前九時＝十一時　午後二時＝六時

急募
經驗者 數名
至急傭ひ度し
サント・アンドレ市　キンゼ・デ・ノベンブロ街　二五二
チンツラリーア　コスモス

新式四カベタ型
一臺あります
望みの方は
御來社下さい
時報商事部

中古シンガー　ミシン

ADUBO GUERREIRO
Com. de Agricultura, Imigração e Colonização
中央事務所: São Paulo　R. Libero Badaró, 39
(CAIC)　電報: CAIC　電話: 2-3105, 支線 46
ANTONIO PRADO JR. HEITOR FREIRE DE CARVALHO. EDMUNDO NAVARRO DE ANDRADE
ゲレイロ肥料は農耕用に必須缺又可からざる優秀な全要素を含有し更に六一%以上の有機質を含み土地に容易に融合して腐植土となる。有機質なくして沃もなく、化學肥料の施肥にも來効を來す。我肥料に就ては以下の世界的機關なる諸大家が實證されたり。帝國中央地質研究所長ドトール・パウロ・バジェレーロ、合理的肥料技術大家カンピーナス農學試驗場故前ドトール・テオドレッド・デ・カマルゴ、聯邦農務局農業化學研究部長ドトール・マリオ・サフイーバ
サンパウロ（パラフィン紙詰込み）一トン當り價證
一トンから一〇トンまで　三〇〇錢
十一トンから二五トンまで　二九五錢
二六トンから五〇トンまで　二九〇錢
五一トンから一〇〇トンまで　二八五錢

伯剌西爾時報社
内外各地支社所在地
東京支社　鷲谷精一　東京市京橋區槇町二ノ九
リンス支社　中村滿志　Rua Comandante Porfirio, 144　C. P. 203　Tel. 220　Est. Luiz L. Nonato
ノ・プルデンテ支社　茂木源太郎　Rua Ruy Barbosa, 471　C. P. 137　Est. Pres. Prudente
マリリア支社　本多彬　R. Paes Leme 306　(川口醫院側)　C. P. E Est. Marilia
L. Sorocabana　L. Paulista

DR. HEITOR FENICIO
Av. São João 536 6º andar sala 2
Fone 4-1188 — São Paulo
淋病　最新治療法ケタリング法を適用すれば如何なる淋病も極短期間に完全に治療致します
廉價

求人
市内配達人 一名
青少年
半日勞働勉學に適す
御希望の方は午前七時までに本社工場（御來社下さい）
時報社

QUANDO OS OLHOS acusam A FADIGA DE UM LONGO DIA...
Bastam algumas gotas de Lavolho para lhes restituir alivio e bem-estar imediatos. Use, diariamente, Lavolho.
LAVOLHO
DESCONGESTIONA OS OLHOS

肝臟の膽汁を活潑ならしめ
食養生の要なく毎朝元氣に滿ちて起る法
量に肝臟から排泄される膽汁が若し止まりすぎたり不足なり胃内に不純なものが溜り便秘を伴ひ身體に良い適な招き生命の惱みを無い善通の手當では癒らず肝臟病特効Carcos藥あるのみ、これ用ひれば即座に癒りも氣は無技的に恢復する PILULAS CARTERS 急用ひられよ、偽物あり注意 一ケ三ミル

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233 3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo
法律一般　譯
岸本アラリコ　全國譯人　法律事務所　顧問　アラリコ・フランコ・カユビー
事務所　聖市ジョゼ・ボニファシオ街二三三番　三階三一〇—三一二號室
郵函一一二四　電話二—一一三七

有利副業
養鷄
時報商事部
◇飼料
◆產卵牝鷄完全飼料　一俵　二一〇〇〇
◆雛用完全飼料　同　三二〇〇〇
◆フランゴ用完全飼料　同　二八〇〇〇
◆レフイナジール　同　一八〇〇〇
◆肉粉（五二%）　同　三八〇〇〇
◆血（四二%）　同　二五〇〇〇
◆骨粉　同　三三〇〇〇
◆貝殼粉　同　一八〇〇〇
◆血粉　同　五五〇〇〇
◆トリギリヨ　キロ　一、五〇〇
◆ファレリンニヨ　一俵　一九〇〇〇
◆ファレリヨ　同　八〇〇〇
◇養鷄用藥品　同　七〇〇〇
◆羽蟲退治—除蟲菊粉（日本製）一カン　一六〇〇〇
◆鷄舍消毒劑リゾフォルム　一カン　七〇〇〇
◆流行性病猖獗防注射液　六〇羽分　五〇〇〇
◆羽蟲退治用タバコ粉末　キロ　一、二〇〇
◆ゴゴリナ（ゴゴ病に）　一ビン　五〇〇〇
◆鼻カタル治療藥　同　六〇〇〇
◆ジフテリヤ像防注射液　同　五、五〇〇〇
◆鷄コレラ菌防注射液　同　五〇〇〇
◇養鷄用具
◆金網一、八〇センチ　米につき　四、五〇〇
◆金網製作用針金　キロ　五〇〇〇
◆飼料アルミニウム製　十枚　二、六〇〇
◆去勢器　一揃　百五十ミル
◆孵卵器、育雛器—ランプ等は問合せ次第御通知の事

# 伯國初代航空相 サルガード フィーリョ氏 昨朝 空路聖市訪問

伯國初代航空相サルガード・フィリョ氏は、昨朝聖市を訪問、當地軍部及び州政府高官其他多數名士の歓迎を受け、直ちに聖市各飛行場の設備その他を極分の上、午後二時よりジョッキー・クルブが主催して完成したシダーデ・ジャルヂン新競馬場の開場式に臨んだ

# 北米へ流れ込む金塊 今次歐洲戰後激增 昨年中に四十六億七百万弗

北米へ流れ込む金塊は、特に今次歐洲戰勃発以來物凄く激增するに至つた、米國政府の發表するところに依れば、昨年十一月中の金塊輸入高は三億三十万七千弗、十月は三億二千五百九十六万七千弗で過去十一ヶ月間に米國へ流入した總額は四十六億七百万弗に達した（前年同期間は卅一億二千二百万弗）、かくて米國の金貯蔵は二百十八億弗に達してゐる、尚十一月中の米國への金塊出國の主なるものは次の通りである（單位千弗）

| | |
|---|---|
| カナダ | 二六二・七二一 |
| 濠洲 | 一四・四四一 |
| 亞爾然丁 | 一二・九八四 |
| ポルトガル | 九・二八六 |

銀塊輸入高は十一月四百七十二万一千弗、十月四百八十五万七十弗、積出國はメキシコの二百廿五万七千弗が第頭となつてゐる

# 近衛總裁から在外者へ

## 海外同胞中央會設立に支援方依頼し來る

紀元二千六百年奉祝海外同胞東京大會は非常に盛大、且意義深く好成績で終了したことは都度詳報したが、同大會總裁近衛文麿公から次の如き感謝狀を送た海外同胞中央會設立の協力方を依頼した書面を在外同胞に送つた

今般紀元二千六百年の聖典

# 西野球戰 聖 野 けふ 谷 カ中尾で 對 報

西谷商會野球部と聖報チームはけふ午後二時よりカ中尾球場に於て一戰交へる、新進なから侮りがたい實力をもつ西谷と試合は手の聖報だけに興味ある一戰とならう

# 多彩！もんて丸の歸國者

來る廿一日サントス出帆の商船もんてびでお丸で對蹠外務領事はじめ高杉八彌（東山）辻信一郎（三菱）松井内吉（海興）、古賀鶴彌（ブラ拓）、小椋正勝（日伊産業）、平野忠嗣（繊維）、中野夫人（海興）中山忠太郎（未屈振興）、清水周一（貿易解説所）、葛岡唯雄（普及會）の諸氏等白三十餘名が歸國するが、乙等多數の歸國者に對して二人の社々友が揃つて一時歸國する事になつた、即ち聖市の大須賀徳次郎氏（銀貨店主）は十四年ぶりで墓參、故郷の家整理に、又クワタの杉本金松氏は十二年ぶりに郷里訪問をする

## 錦衣故山を訪れる 大須賀徳次郎氏

## 十四年ぶり

大須賀氏は三重縣桑名市片町に三人の姉のあとへ末子として生れたが幼少にして（三歳の時父、十六歳の時母）兩親に死別した氏は家庭奉公をしたり職を求めて大阪、東京と轉々として幾多の辛酸をなめ昭和二年六月郵船神奈川丸で渡伯、當時ヰ村政吉氏が支配人をしてゐたポッカワ耀をコンセルバチーリ耀地に耀出され其處で一年半の義務勤めを終へて出奮、伯刺西爾時報社ブルヂンシア貯蓄銀行で働き今から九年前ゴ在のグロリア街に獨立してパール繊維雑貨店を經營今日に及んでゐる、氏今日の成功は手堅き商法と氏獨得の經營法に依ることは勿論だが、洋裁によつて夫の事業を助けた、夫人内助の功も亦没すべからずである

（寫眞は大須賀氏）

## 奥ソロの商雄 杉本金松氏

## 廿四年ぶりで歸國

杉本金松氏は愛知縣海部郡佐織村草平の産、大正七年七月若狭丸で渡伯、ドラデンセ線ポンテアルト町ニヤ

僅は大阪商船ぶらじる丸は商風十五日三百四十名の客を乗せて無事横濱に入港した、主なる船客は大阪帝大纖維化學衣服研究部員田中千代女史および名古屋市貿易課長林直氏一行五名の中南米視察團が歸朝した

田中女史談　五ヶ月間に亘つてシンガポール、インド、南米、南阿などの各地でわが國の輸出入綿布の

## 南米で邦品が喜ばる

## 日 中女史 林 貢 氏 らの歸朝談

染色や利用につき種々あり、彼等の制服など視察研究して來ました、南米は歐洲戰亂から佛國製品の輸入が杜絶した爲、日本製品が喜ばれ、携帯して行つた綿布人絹は非常に歓迎されました

林貢氏談　綿布、毛織物、陶器及び發火器など四百品の見本を持つて、五ヶ月餘メキシコ、ペルー、チリー、ブラジルなどで見本展示會を開催、戰亂によつて獨英製品がなくなり、それに代つて日本製品が輸入を利かせてゐるので意を強くした、中南米方面では日本の建築用機械類や從來とは違つて相當高級品が喜ばれました

## 別盡 はれ ずき

## 聖市球界を總動員し 田川、松井、葛岡、三氏の 送別野球 けふ・九時カ中尾球場

聖市實業野球聯盟では、同聯盟今日の殺戮に多大の功勞あつた田川、松井、葛岡三氏が一時に歸國する事を惜しみ、本日（日六日）午前九時より聖市球界の第一陣を總動員して行はれるこの試合は、三氏を送るに相應しい大試合となる事とファンは期待してゐるカ中尾球場に於て情熱野球を催す事となつた、試合は同聯盟加入チーム選手中より代表二名を選び、これを紅白に分けて行はれるが、あたかも聖市球界の第一陣を總動員して行はれるこの試合は、三氏を送るに相應しい大試合となる事とファンは期待してゐる

## アンデスの山の學者 日本人の沈著さに感心

獨逸アルプス山岳會のメンバーでペルーのアンデス山脈について研究をつゞけてゐた四人の篤學者

インスブルック大學キンツエル教授はかハツクラー、ブレヒト、ハイミリッヒの四氏は二ヶ年に亘つて雪のアンデス山脈にあつて海拔六千米以上七つの山々や山嶺をくまなく登攀して新人未踏の地域に精密な地圖を作成大きな貢献をして日本を訪問したが一行は次のやうに語つた

大每の世界一周機ニッポンのアンデス山越えにはちようど山頂にゐて友邦日本の國に萬歳を叫びました、リマ市には日本人が深山幽谷原始林地帶の開拓に相當の國際性を見せてゐるが、リマ市の大地震の時には震動と同時にすべての日本人は食料や毛布類を持つて直ちにサンマルチン廣場に集まつて一名のみ傷者もなくその沈著さに學ぶべき點の多い事を知りました

## 夏と エビオス

夏痩せで目立つてきて少しも食慾がなくなり、體かだるく下肢がムクみ、立つて居るとすぐ足の脛が痛くなたりうつかり歩くとつまづいたりする、よく見ると、指先や口唇の感覺が少し鈍く、しびれたやうになつて來る、これは輕いヴイタミンB缺乏症で、即ち輕い脚氣です。

（ムクまないのは心臓性で却つて危險です）

以上はよく有る夏の病氣で、ほつて置くと種々な餘病を併發するものです、なるべく早くお醫者樣へ御相談なさい、お醫者樣はこれに一番よく効くエビオスを指定されませう

☆各地有名藥局、商店に有り……

## 雜記帳

◇ リオ來電によれば、ゼツリオ大統領は今年中ウルグワイ河に架設される國際橋梁の伯國側負擔額四千コントス支出案に署名した

◇ 聖市醫學集延期願書に在留申請提出期限も餘す所僅か五日間となつた、日本人であるから以上これを忘れる樣なことは一人もない筈であるが、毎年若干名の未着者が後所に餘計な手數をわづらはせてゐる事實がある

◇ 昨年度聖市大河州産出の小麦收穫量は十二万噸であつた

◇ 同盟通信は以來イタリヤ國内の日本研究熱はますノ昂まつてゐるから、新任イタリア大使堀切善兵衛氏を中心に日伊共同で日本紹介の月刊雜誌を發刊の計畫が近く實現する

◇ 今年のリオのカルナヴアルの馬鹿騒ぎを見やうと、アメリカから二百人のツーリストがやつて來る、ヤンキーはどこまでもヤンキー式だ

◇ 久敬會（海興支店員）では一昨夜常盤ホテルに於て、來る卅日總のもんて丸で歸國する松井内吉氏の送別宴を開いたサントス魚業者釣七郎を占めてゐる邦人が今迄全部外人の問屋を地して販賣してゐたが「生産者より需要者へ」のモットーを掲げて今年からサントス漁業合名中井組を設けて直接漁獲所からお客へ販賣する事になつた

## 殺人未遂事件後報

## 原因は金錢上の爭ひ 藤本は今朝遂に絶命 妹夫婦も遂に後を追ふ

昨紙報道藤本信市の殺人未遂事件は、其後入手した情報によると、藤本（卅九才）は一年程前からエリザベス（廿九才）と内縁關係を結び、彼女の妹夫婦と同居させてゐたが彼が毎月取る生活費は妹夫婦に消費される事多く、ために金錢上の事で常に爭ひが絶えなかつた處、廿三日も生活費の事で喧嘩口論を初め大立廻りとなつたが、この日は藤本が警察に引致されて納まつた廿四日未明、釋放された藤本は前日の憤激さめぬ儘に女の家を訪れた處、固く戸を鎖さしてゐた爲めこれを打破つて屋内に侵入、睡眠中の妹夫婦を携へ來た箱銃を發砲して重傷を負はせ、情婦をも殺害せんと血眼で探したが、彼女は逸早く逃走した爲め目的をはたさず、自らは豫て用意の毒藥を多量に嚥下し其場に昏倒した騒ぎに附近の番知により警察より係員出張、臨檢の上直ちに病院に運んだが、藤本は遂に今朝絶命、妹夫婦二人共に腕に二発の彈を受けてゐたので後を追つて絶命した

## 愛の窃盗事件

### インディアン婦人を繞る 同胞の醜い爭ひ

フォールスで、エラと呼ぶインデアンの女と結婚、本年六歳と一歳半の子供二人がある、然るに今年一月から六月までの間にBなる日本人が彼女に近づき、遂に彼女は六月一日家出してしまつた、そこでAは家庭を破壊したBに對し、一萬弗の慰謝料を要求すると提訴したものである、斯くて裁判の結果、明らかにこれはBが悪いとあつて、判事は直ちにBに對し金五千弗をAに支拂へと申渡して、此の愛の窃盜裁判は終となつたが、偖に日本人が、五人しか在住しない地方の事とて、此の裁判は話しの種になつてゐる

## あの ちら 話

### 同胞の醜い爭ひ

北米のモンタナ州にグレート・フォールスといふかさい町での話し――

此處に五人の日本人が在留してゐるが、同州では日本人と白人との結婚は禁止され、日本人の女性も居らず、結局結婚する相手がないのでやむなくインデアンの女性と結婚する外なく、現に同胞二名がインデアン女性を妻にしてゐるが、端しなくも此インデアン女性を繞つて、

愛の窃盜　事件が持ち上り裁判沙汰となつた、原告はAといふ日本人で、去る十日グレート・フォールスの地方裁判所で開廷、シャトルから伊藤識治といふ二世通譯士が通譯として出廷した、Aの陳述によれば、彼は一九三二年グレー

伯國唯一の日伯両語兒童雜誌「子供の園」を愛讀せられよ！


ブラジルに存外多い脚氣病

伯國總代理店
西谷商會
Caixa Postal, 3748 - S. Paulo
Caixa Postal, 1134 Rio de Janeiro

TERKOS
賣土地　貳百碧の觀始林。
近き將來設置される可きアルトバウリスタ、サンタアンナ驛より二十キロの地點。一碧七百五十鈎。支佛便宜あり。樹、珈琲に適當の土地。詳細はポンペイア市マキナ、アルメイダ内フオンセッカ氏へ御來談又は書信にてお問ひ合はせありたし
Sr. Fonseca C. Postal, II POMPEIA

天然石版印刷
鹽谷寶
聖市タバサンダーラ街一二六番
郵電二五七四
電話三九八〇

日本菓子なら何でもお好みに應じ上品に且つおいしく調製致します
西中製菓所
聖市コンセレイロ・ルルード街廿三
電話二一八三八

TERKOS
賣土地　貳百碧の觀始林。
近き將來設置される可きアルトバウリスタ、サンタアンナ驛より二十キロの地點。一碧七百五十鈎。支佛便宜あり。樹、珈琲に適當の土地。詳細はポンペイア市マキナ、アルメイダ内フオンセッカ氏へ御來談又は書信にてお問ひ合はせありたし
Sr. Fonseca C. Postal, II POMPEIA

貸店、工場、會社、代理店等の會計事務一切を取扱致します
土橋會計事務所
聖市シルヴェイラ・マルケス街七二番
午前八時より十時まで
電話二一九九

求、蔬菜部從業員
一、日系伯人
一、日伯兩語の出來る方
一、體格丈夫な方
委細面談、履歴書持參
聖市ルア、ミゲル・カルロス七七
ジュケリー農産組合
Rua Miguel Carlos, 77 - S. Paulo

Casa ANGLO-BRASILEIRA
SUCCESSORA DE MAPPIN STORES
明日27日より弊店
恒例
半期大賣出し
LIQUIDAÇÃO SEMESTRAL
開始
其品質優秀と斬新流行を誇る御身廻りの品又御家庭用々品等總てに亘り
驚異の新廉價
を附し來月中旬迄半期大賣出しを継續致します
CASA ANGLO BRASILEIRA
Sucessora de Mappin Stores

アメンドイン
ジャポネース
日支豆
製造元卸專門
菅井兄弟商會
聖市パロン・デ・イグアッペ街九三二
電話七―七二五五

木炭、鳥類、玉子販賣
鰐、鰹、良質の魚肉店にて食庫及び空地備し
目下營業中格安にて譲る
聖市アベニーダ・セルソ・ガルシヤ街四三五四六番

開業
今般左記の場所に於て開業致す事になりましたから精々御利用下さいます樣お願申上げます。
營業種目
各種合金鑄物
諸機械製作並請負
設計及製圖
菅井製作所
菅井豊次郎
宅・聖市パロン・デ・イグアッペ街九三二
工場・聖市ドゥトール・トーマス・デ・リーマ街五四四
電話七―七二五五

OGAWA & CIA.
バラナ産
種芋入荷
三、四月植付けに最適のバラナ産バタチニヤ種芋（既にブロタード）が多量に着荷致しましたから賣切れぬ内に御申込み下さい。
小川肥料店
聖市ピネイロス
ペーテス・レーメ街三一五
電話八―一八四九


伯國總代理店
西谷商會
Caixa Postal, 3748 - S. Paulo
Caixa Postal, 1134 Rio de Janeiro

Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-1679
Caixa Postal, H

Director M. Samesima

# NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno .... 60$000
„ Semestre ... 30$000
Numero de dia ... 300 reis

Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIV — S. PAULO — DOMINGO 26 de JANEIRO de 1941 — DIARIO No 2389

## SERVIÇO DE BIOTIPOLOGIA

Foi solenemente inaugurando o Serviço de Biotipologia da Penitenciária do Estado. O serviço que é uma criação feliz do atual govêrno paulista é mais um passo para o aperfeiçoamento técnico e cientifico da famosa organisação penitenciaria paulista. Aperfeiçoamente que na espécie, significa maior humanização do sistema de reprimir o delito através do conhecimento racional do delinquente.

A Biotipologia não é ciencia velha. Não faltam de muito os estudos inaugurais de Pende e de Viola logo depois completados e retificados por vários cientistas. Não sendo velha a Biotipologia é, contudo, uma ciencia fecunda. As conclusões que ela vem trazendo para aclarar discutidos problemas da psicologia individual — e mesmo do comportamento coletivo — contam-se ás dezenas. E a prática ensina que se a Biotipologia não póde se arregar a qualidade suprema de instrumento de comprensão total dos dificeis problemas da psicologia humana nem por isso deixa de ser um magnifico auxiliar do cientifista ás veltas com estudos tão complexos. E no setor da ciencia penitenciária a Biotipologia tem prestado, nos países civilizados serviços de um alcance que não seria licito desconhecer.

A Penitenciaria de São Paulo — renovados e justamente, em todo o mundo — terá no Serviço de Biotipologia uma organização cientifica que podéra prestar á cruzada de regeneração e adapção social dos criminosos um auxilio inestimável. E essa finalidade não é pequena, principalmente se atenta ao que essa adaptação significa sob o ponto de vista social e económico para a vida da coletividade.

## Fala á imprensa sobre a creação do Ministerio da Aeronautica o sr. Salgado Filho

PETROPOLIS, 20 — Surpreendemos o Ministro Salgado Filho, momentos depois de sua nomeação para a pasta da Aeronautica em sua casa de campo — Retiro Sant'Anna — a poucos kilometros da rodovia Rio-Petropolis. Como bom gaucho s. exc. calçava botas de canno alto, vestia culote e camisa de esporte e, a um canto da magnifica varanda, sobre a mesa onde se viam varios livros e revistas descansava a classica cuia de chimarrão.

O sr. Ministro Salgado Filho se cebeu o reporter com a sua encantadora cordialidade.

Juiz togado da mais alta côrte de justiça Militar, chefe de Policia Ministro de Estado durante trinta meses, chefe da Missão Brasileira Economica ao Japão, deputado federal, o sr. Salgado Filho, pertencendo a uma familia de militares sempre teve, nas classes armadas grandes sympatias, prestigiando-as a certa posso em todas as suas attitudes. Dahi os applausos geraes por motivo da nova investidura que lhe foi confiada pelo Chefe do govêrno.

— O Ministerio da Aeronautica, começa o nosso entrevistado — tem uma grande significação. O Presidente Getulio Vargas creando-o, visou principalmente congregar, reunir, concatenar uma série de actividades sempre patrioticas, mas, entretanto, dispersas.

No Brasil não ha qualquer espirito de agressividade porque felizmente mantemos as melhores relações com todos os povos. A nossa conducta, como o sabem todos, é sempre de paz, de concordia de confraternização. O novo Ministerio obedece, apenas a um imperativo da defesa nacional.

Hoje ninguem desconhece a grande importancia da aviação como arma de guerra e como vehiculo, na paz. Conduzindo o remedio ao moribundo, levando, de polo a polo, o homem de negocios ligando pontos extremos, onde a mão do homem pela dureza das serranias ou pela difficuldade do transposição de canaes não póde firmar os trilhos se os barcos, a aviação está fadada a um progresso crescente ininterrupto, uniforme.

Creando essa pasta, o Chefe do govêrno nada mais fez do que acompanhar o desenvolvimento da aeronautica em nosso paiz, que tudo deve a s. exc.

Estimulando os aviadores, creando campos construindo aerodromos dando aviões aos aero-clubes, o sr. Getulio Vargas recebeu um titulo que consagra uma obra: o Amigo da Aviação — como a imprensa dos Estados Unidos o cognominou. E assim o Ministerio de Aeronautica que para muito póde parecer uma extraordinária iniciativa para o observador, para o brasileiro que vem acompanhando o gigantesco trabalho do Presidente da Republica e o complemento, o corolario fatal e esperado de uma serie de beneficas iniciativas. Assim, na pasta que me foi honrosamente confiada tenho desde logo, uma directriz segura: a de ser util ao Brasil, na mais larga acepção da palavra.

O programma a cumprir no Ministerio de Aeronautica está fixado nas normas que lhe foram imprimidas pelo primeiro magistrado do paiz. E não se precisa mostrar a sua necessidade em um paiz que pelos accidentes e extensão de territorio, só tem um meio pratico de ligação que é o céo. Quem poderá acudir ao brasileiro das margens do Tocantins ou do Araguaya, das fronteiras do Roraima dos pampas ou do sertão nordestino, se não a arma da aeronautica? E' preciso que se viage pelo interior auscultando as populações, para se sentir a realidade dos serviços do novo meio de transporte.

O Ministerio da Aeronautica é, assim obra de patriotismo, trabalho de pacifismo meio de união, instrumento de solidariedade entre povos e entre os irmãos e não, como podia parecer, arma para a guerra, para a destruição para a implantação do terror. A aviação dará ao Brasil um sentido cada vez mais nacionalista. O Ministerio da Aeronautica tem, precisamente essa expressão.

## PÁTRIA

«PATRIA NÃO E' APENAS A EXTENSÃO TERRITORIAL DOTADA DE GRANDES RECURSOS NATURAIS E ADMIRADA PELA IMPONENCIA DOS SEUS PANORAMAS. E', ACIMA DE TUDO, A COMUNIDADE DE LAÇOS AFETIVOS E INTERESES ECONOMICOS E SO' EXISTE EM VERDADE, QUANDO SE IMPOE A INTELIGENCIA E AO CORAÇÃO DO POVO COMO A MAIS ALTA REPRESENTAÇÃO DAS SUAS VIRTTUDES E ENERGIAS CRIADORAS.»

GETULIO VARGAS

## Brinquedos do Nippon para as crianças brasileiras

### Chegou de Kobe o "YamazatoMaru"

De Kobe com escalas, chegou, o cargueiro japonez "Yamazato Maru", que realizou uma travessia normal, não trazendo um unico passageiro, transportando porém, para o nosso porto um grande carregamento de brinquedos em celluloide.

O Yamazato Maru louxe 400 toneladas de carga geral consignadas a varios impôrtadores de nossa praça, tendo transportado regular tonelagem em productos manufacturados.

## A exportação de laranjas

### em 1940, pelo porto do Rio de Janeiro

RIO, 20 — (Via Vasp) — Segundo informações prestadas ao Ministro Fernando Costa pelo agronomo A. Torres Filho, director do Serviço de Economia Rural, a xportação de frutas citricas pelo porto desta capital até 31 de dezembro ultimo foi de ... 2.054.882 caixas de laranjas contra 3.189.197, em egual periodo de 1939.

A differença para menos em 1940 é motivada pela guerra e consequente fechamento de varios mercados europeos dos quaes se destacavam a Holanda, a Belgica e a Inglaterra, sendo que este ultimo paizreduziu suas compras sensivelmente tendo adquirido apenas 254.422 caixas no anno findo contra 825.383, em egual periodo de 1939.

Com relação ao mercado platino, quasi nenhuma oscillação as estatisticas revelam. No mesmo periodo de 1939, o mercado de Buenos Aires, consumiu 1.909.579 caixas, emquanto que em 1940, exportamos apenas ... 1.790.505. Devemos accentuar entanto que não ha quasi decrescimo na exportação para aquelle mercado, por isso que no calculo de 1939, está incluido o total da safra citricola daquelle anno emquanto que a safra de 1940 ainda não está terminada sendo muito possivel que os remanescentes da actual safra cuja exportação se processa, supprimirá essa apparente differença para menos, isso sem levar em conta a falta de transportes maritimos que difficultou o rythmo das exportações.

# Da Independência ao Estado Novo

( 22 )

Mas o fracasso do liberalismo não implica o da democracia. A essência da democracia consiste no caráter popular do Estado. O Estado democrático é, pois, o que emana do consentimento popular. O liberalismo adstrito ao conceito da representação politica, supunha de boa ou má fé, que a vontade do povo só encontrava expressão no sufrágio universal. Desde que os cargos de representação e direção politica se originassem dos pleitos eleitorais, embora todas as fraudes e corrupções do voto estava armada a democracia. Assim, esta convertia-se em mera noção formalistica. O liberalismo fechava-se egoisticamente aos clamores de todas as extorsões que se faziam em seu nome. Aplicava-se ás sociedades humanas o impiedoso principio do evolucionismo biológico: luta pela vida e esmagamento dos mais fracos. O Estado esgotava os seus deveres, garantindo a ordem material das ruas e a justiça formal. A instabilidade dos govêrnos agaçava todos os apetites das clientelas eleitorais. Funcionaria indefinidamente a máquina rotativa dos partidos. O Estado era uma exploração rendosa que cabia igualmente a todos; mas que, de fato, se convertera em monopólio dos grupos e facções, hábeis na industria da demagogia e na manipulação dos pleitos eleitorais.

A democracia instituida pelo golpe de Estado de novembro punha de parte a velha hipocrisia liberal, para interpretar diretamente a sociedade brasileira. A igualdade base dos governos democraticos, não se reduz ao efêmero e duvidoso momento em que o eleitor deposita o seu voto nas urnas eleitorais. Ela se concretiza sobretudo, na igualdade dos pontos de partida. O Estado oferece oportunidade igual de triunfo, não somente politico como economico a todos. Não se subordina aos interêsses dos grupos mais poderosos, desdenhando da sorte dos mais fracos. A sua atividade ativa estende-se a todos os setores da vida nacional, de que é a suprema orientação. Outrora era possivel expiar-lhe a simples função de proteção dos direitos individuais contra a prepotência das minorias privilegiadas pelas origens do sangue. Extintas as autoridades de direito divino, o Estado tinha forçosamente de alargar a esfera das próprias atribuições. No manifesto com que inaugurou o Estado Novo, o Presidente Getulio Vargas sintetizou com clare as novas funções que o desenvolvimento das atividades económicas impôs ao Estado contemporâneo. «A prespectiva da luta civil, dizia o Chefe da Nação que estabelecia todo o momento os regimes dependentes das flutuações partidárias, é substituida pela perspectiva incomparavelmente mais sombria da luta de classes». Em tais circunstancias, acrescentou a capacidade de resistência do regime desaparece e a disputa partidária das urnas é transportada para o campo da turbulencia agressiva e dos choques armados».

Era esta justamente a situação em que se encontrava o Brasil no fim de 1937 e na ultima fase da campanha pela sucessão presidencial. A disputa dos inumeros pequenos partidos brasileiros degenerara em graves rivalidades regionais e no perigoso antagonismo das classes sociais. Os extremismos da esquerda e os da direita eram os frutos lógicos da democracia individualista e formalistica cuja derradeira experiência se tentou na desdruxula Constituição de 1934. O Estado de 10 de novembro veio no momento oportuno como um imperativo de salvação nacional. Realizando-o e outorgando ao Brasil a sua nova Carta Politica o sr. Getulio Vargas iniciava em verdade a grande marcha renovadora que a Revolução de 1930 ainda não pudera cumprir. Veremos mais de perto no próximo capitulo a estrutura da Constituição de 10 de novembro.

### B) — A CONSTITUIÇÃO DE 1937 E OS SEUS PRINCIPIOS FUNDAMENTAIS

A Constituição de 1937 distingue-se no a pedo ideológico, muito mais ainda do que a de 1891, pela sua perfeita unidade. Quanto tinha a Carta de 1934 de longa complexa e contraditória tem ela de sintética, clara e lógica. Mas a sua grande caracteristica é o espirito realistico que a inspira. Fugindo ao estilo commum das leis que se transportam de ambientes estrangeiros, procura diretamente as realidades objetivas do país. E' pois, essencialmente, uma Constituição brasileira. Não se perde em digressões vãs nem desce a minucias de regulamento. Formando um todo sistemático engloba tôdas as atividades da vida nacional, para colocá-las sob a direção, a orientação e a vigilância do Estado.

Este perde o seu antigo carater negativo que tanto serviria ao surgimento e florescência de oligarquias fechadas politicas e económicas, para enfeixar a nação como um complexo vivo. Não é agnóstica, disse o ministro Francisco Campos pois reconhece idéias e valores, que retira da livre discussão. Aos poderes do Estado de outrora agindo em esferas independentes e muitas vêzes em pleno antagonismo, substitue a unidade do poder. Os brasileiros sabem que têm um Govêrno responsavel. As atribuições a que antigamente os Presidentes da Republica se arrogavam com direta violação dos preceitos constitucionais são entregues á clara responsabilidade do Chefe do Executivo federal. Reagindo contra a superstição secular da rigida divisão dos poderes irrealizavel na prática ela faz do Presidente da Republica muito mais do que secundario colaborador do Legislativo pela formalidade da sanção das leis o iniciador das leis que o Parlamento terá de discutir, permitindo-lhe tambem a faculdade de expedir decretos-leis durante o periodo das férias parlamentares ou sôbre a organização do Govêrno e da administração Federal. A delegação de poderes que a Constituição de 1934 proibira tornou-se regra na Carta de novembro. A eleição direta passou a constituir excepção; o mais do voto popular desfeito pela prática da vida contemporanea das nações não poderia substituir no texto da Constituição salvo nos casos expressamente determinados em que a vontade das maiorias precisa ser expressa. Articulando num só sistema a vida politica do país a Constituição de novembro aplicou o mesmo processo á economia nacional. Manifesta-se logicamente em todos os capitulos o seu espirito de coordenação e de harmonização de todos os esforços do Estado dos grupos sociais e dos individuos.

LEIA O NOSSO
KODOMO NO SONO
Supplemento do Jornal "Noticias do Brasil"

## 文藝

### 桝

山里澪美子

**毎日** 朝晩米を量るに用ひる桝があまり古びてゐるので、いつ頃買つたものか母にたずねて見ると、母もよくは知らないそうだが、母が嫁いで來た頃にも毎日使つてゐて、大分古びてゐたのだからきつとお祖母さんの代に買つたんだろう——。それとも、ひよつとするとお祖母さんのお母さんの代からもあるかもしれないと母は何んでもないことのやうに呟へた。私はそれを聞いて今更その桝を、畏を返したり廣を撫でたり仲童狂が何か撫出し物でもした時のやうに、つくづく眺めました。—成程古いものらしく、外側の四方へそれぞれ異つた雅趣が捺してあるのがすり減つて、やつと讀める程度に「二合五勺」と一面にあり、反對側には嘉知製と薄く彫え殘りの印が讀まれる。

**朝晩** 米を量るに使ふだけで、すつかり木の角が丸くとれてゐるのだから、どれだけ長く使つたかが想像もされるわけだ。すり減つた丸い角は、焼いた煙の肉を思ひ出させるやうに波型の木目が浮いてゐる。多分、杉の木だろうと思ふ。祖母が嫁いで三十年目に母が嫁いで來たものとして、六十年、祖母が買つたものとしても五十年は經つてゐるだろう。

—五十年昔の桝—考へただけで興味が湧く。興味といふにはもつたいない。祖母か此の桝を才にしてどんなことを考へたであろう……。此の桝に足らぬ米を、此の桝を握つて、溜息と共に見つめたりしたことはなかつたであろうか……。

**それ** とも此の桝で量つた何杯もの米を、大釜で炊いて、賑やかにお膳を囲んだりしたのだろうか。そんな小さい出來事を五十年過ぎた今、知つてゐる者は一人も居はしないだろう。強て云へば、此の桝だけが知つてゐるわけだが、物云はぬ桝をいくら眺め廻したとて解る筈のないことだ。

—今、家の中の何處を見まはしても祖母の代から傳はつた品物といつては、この桝だけらしい。遠い國に渡り來たのだから、何もある筈はないが祖母の代からの品としては、古びた二合五勺の桝が只だ一ツなのだ。だから、私はすり減つた桝を、桐の箱に納めて御先祖の毎日手にしたり只一ツの念品として、保存する價値が充分あると思ふ。思ひつゝも、やはり使ひ慣れた故か、空罐等で量ると、多すぎたり、少かつたりするので、毎日これを使ふ。そして、祖母の夢の温かみを感じるやうな氣持になる時もある。

子孫に、先祖を思ひ出させるために、なにか日常用ひる品物を殘すのはいい事だと思ふ。古びた桝にも、祖母の香を發見出來る。先祖を懐しむに充分だ。

小さい桝にさへも、秦數なる歴史が秘められてあるやうな氣がして、米を量る度に桝を見つめるくせが、いつとはなしについてしまつた。了

## 短歌

### 成瀬領事の君ゆみ文を賜りて

葛西 妙子

「學校教育に依存すな」と五らせしが君爲學にて今日を築き給ひしか 成瀬領事に—

價なき才を持ず母は誠實と努力に生きぬ汝もかく生きよ

（葛西望に）

妻も性がもたぬ思さも吾に似し子を褒められて嬉しこの母は

——◆——

▲ ポエイア 水原 夕美

なつかしき思ひ出は遠し修學旅行に友と歩みし三保の松原

働の浪けたてい進む蒸氣船ぬちにかもめの歌を我等うたひ

のびのよき雛煮食らべてつゝましくうから等六人歳を迎へぬ

し白瓦ふえしとのらす父上の首根のあたり肉づきしるし

▲ トレスバラス 晶山 充

陽はすでに落ちしに未だ薄明し珈琲殿珈琲煙地を這ふ

宵雨に濡れしテレイロは鮮かに銀板の如き光放てり

降る雨は既に四日經にけり抜き伏せし草は芽出し皆ならむ

▲ オンダベルダ 尾山 應咲

さすがにも我が家は樂し見や孫の愛しき笑顔ながめ寢にけり

出穂前の陸穂靜けく降る雨の音をよろしと立ちて聞きゐる

夕されば細き吐息の妻の愛今宵は聞かず寢室にけらしも

▲ ケエラクルース 大原 友重

谷づたひうつらふ霧のひそけさや道行人のしほぶかひつゝ

霧降る夜の明け近く起き出でて宵戸にし立てば雫する音

日毎咲く薄紅の櫻の花はかなかりけり散り行く見れば

美くしき女嬉笑れ繪馬をはり

▲ ポイベイア 山本 操

▲ マリリア 下甲 崎人

櫻も水も蛋白質も微塵られぬ

献立表を吾が作りたり

幾年をこの山奥に臥りつ、師の面影をせちに想ふる

▲ ヌラクワラ 米澤 韓夫

やはらかき月の光に照らされつ

朔土樹の葉は甘く匂へり

▲ マルチノポリス 緒方 新朔

暮るゝ日の山かつ山邊をアランビケのかんな屑焼くれ棚引く

▲ ケエラクルース 大原 太一

小止みなく昨日も朝より雨降れば蔬に際立ちて櫻の伸びゆく

風落ちて暑き夕べを庭先に涼みてをれば雷のとゞろく

▲ クワラペス 孝

大君の勅のまに北支那の奉と飲りにし我が養兒はや

▲ クラビニュコス 大澤 一時

曙の疎林に囀る鳥多し行く行く見れど影の見えなく

棚も無く這ひ廻るまゝ擴ごりし瓢簞の花の咲きにけるかも

▲ 上岡 光子

窓越しに見ゆるカンナの紅は色鮮けし雨に濡れつゝ

▲ 上岡 達雄

流れおつる竹も拭はず他所に降る雨を眺めぬ鍬たてしまゝ

▲ モデ 農 文士

夜業終へ歸りて入りし野風呂より梨の木の間に夏の月見ゆ

▲ サンガロ 西原 岳南

諸々の鍬れを拂して通ふなる夜學に眼の裏ふるらし

▲ リオデベーエ 一馬

日照雨未だ霽やらぬ空に立ぬる虹の彩やのさやけさ

▲ ガルナ 大平 忠男

朝顔の咲き揃ひたる庭先に佇み居れば朝日のぼれり

▲ ポイベイア 山本 操

## 詩

### 「一千六百一年」

バストス 長尾 猛

強く、正しく搏つ血脈よ
新しき時代を生まんとする母は
激しい陣痛の苦に耐えて
一個の胎動と共に年を越えた
紀元二千六〇一年
新しく生れるこの世紀よ
天と地と一切のものとに
呼吸を傳せて母よ
產褥の苦に負けてはならぬ
壁一重の外界に
窓越しに聞きつゝ
武裝も解かぬ强物達に護られて母よ
光榮ある
吾等の血脈を育てねばならぬ

### 棉作りの唄

クラビニュコス 江尻 潤

青田借りをして
手に余る畑を抱へ
收穫が一大勝負さ、と
俺らも やうやく
棉作り" になつたのか
高い歩合ひを納め
食料は豪利れ
作棉は何んの斯んのと値引きされ
これでは俺らの取前へは
殘りやしない
そうだ、お前へらは
ブーロロだ、と云つたパトロン
そのパトロンにしがみついて
棉を作つては一生懸命
身體と氣力を消耗するばかり
然し資本もなく、假用もなく、智慧さへない
俺ら達に是以外
如何する術があるといふんだ

### —父病む—

バレッス 汀月

父病みぬ
くるしげに
今宵も
咳き入る
御世の
背をなで給ふや
咳の合間に
何か話し居り
一人子の
頼りなき故
先を案じて
病みぬれども
病みれずと
今日も畑に
一日在りし
父なり
くるしげの
咳の合間に
聞らへるは
吾の事なり
小雨降る夜に
ふと目ざめ
ねつかれぬまゝ
病む父を思ふ

### 「雫する」の——ひたすらさびし——

ルナ 魔了生

▲下甲氏—瞑目に比して少々劣つてゐた。「注射の痛み」「しげり合ひて」等保留分は感動稀薄に過ぎる。

▲米澤氏—今回不出來、—そゞろ悲しき—父は—こぼれ落つらむ楕形の月—等々、言葉の遊戯に終始して内容空虛のものが多かつた。注意され度い。

▲結方氏—良々筋の通つた歌が多くなつた事はよろこばしい。歌はこれから出發しなければならない。精進を望ふ。

▲大原(太)氏—今回やゝ良好。鍛錬分と保留分を比較研究され度い。

▲西原氏—作者自身には明瞭に摑めてゐる境地も、それを確的率直に詠まねば、讀者に感動を與へる事は困難である一筋に詠み上る樣心せられ度い。

▲上岡(悠)氏—歌は心の叫びでなくてはならない。何の感銘もないものを、たゝんだ言葉で書き綴つても決して歌にはならない。

(妄言多謝 武本生)

### 「一千六百一年」の——ひたすらさびし——嘶それである。

▲下甲氏—瞑目に比して少々劣つてゐた。「注射の痛み」「しげり合ひて」等保留分は感動稀薄に過ぎる。

▲米澤氏—今回不出來、—そゞろ悲しき—父は—こぼれ落つらむ楕形の月—等々、言葉の遊戯に終始して内容空虛のものが多かつた。注意され度い。

▲結方氏—良々筋の通つた歌が多くなつた事はよろこばしい。歌はこれから出發しなければならない。精進を望ふ。

▲大原(太)氏—今回やゝ良好。鍛錬分と保留分を比較研究され度い。

▲西原氏—作者自身には明瞭に摑めてゐる境地も、それを確的率直に詠まねば、讀者に感動を與へる事は困難である一筋に詠み上る樣心せられ度い。

▲上岡(悠)氏—歌は心の叫びでなくてはならない。何の感銘もないものを、たゝんだ言葉で書き綴つても決して歌にはならない。

(妄言多謝 武本生)